

或本の反歌一首

二四一番

大君は 神にしませば 真木の立つ 荒山中に  
海をなすかも

弓削皇子、吉野に遊でます時の御歌一首

二四二番

滝の上の 三船の山に 居る雲の 常にあらむと  
我が思はなくに

春日王の和へ奉る歌一首

二四三番

大君は 千歳にまさむ 白雲も 三船の山に 絶  
ゆる日あらめや